

1. 科目名 (単位数)	病弱者の心理・生理・病理 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3346 SSMP3446 SNMP3446 SCMP3446 SBMP3446								
2. 授業担当教員	立松 英子										
4. 授業形態	医療サイドから期待される教育についての講義・演習	5. 開講学期	春期								
6. 履修条件・他科目との関係	「病弱者の心理・生理・病理」は医療サイドから見た教育ニーズに沿って授業を行います。「病弱教育 I」は学校教育の立場から病弱教育を学習します。										
7. 講義概要	小児慢性特定疾病（悪性新生物、喘息などの難治性呼吸器系疾患、ネフローゼ症候群などの内臓系疾患、血友病などの血液・リンパ系疾患、筋ジストロフィーなどの神経疾患等）を中心に、院内学級や訪問教育の教師として医療職との連携・協力において必要な、倫理観や社会的責任感、共感的態度及び、各疾患の生理・病理、病気の子どもとの心理特性、家族の生活や心情、退院後の学校生活での配慮事項について学ぶ。										
8. 学習目標	<p>【期待される効果】以下の事項を踏まえ、長期の療養を伴い完治の難しい慢性疾患とともに生きる児童生徒や家族に寄り添い、医療チームと連携・協力するための基礎知識及び倫理観・責任感が身につく。</p> <p>① 子どもの発達や子育てについての基礎知識。  ② 病気の子どもや病気の子どもを育てる家族の心理特性。  ③ 病気の子どもに関わる専門職の役割と連携・協働のための基礎知識。  ④ 病気の子どもが地域の学校に戻った時に必要な学校側の配慮事項。  ⑤ 病気の子どもに関連する医療や福祉の制度。</p>										
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>「小児慢性特定疾患」から一つを選び、以下の内容でレポートし、発表してください。</p> <p>レポートの内容：①疾患の原因・症状 ②治療法 ③予後 ④学校生活で必要な配慮事項 ⑤参考文献  *評価は、①書式や期日を守ったか ②簡潔に書けたか（簡潔でわかりやすい文章を書くことは教員に必要なスキル）、③積極的に他の文献を参考にして学んだか を基準とし、量ではなく質で評価します。</p>										
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】Web サイト：小児慢性特定疾病情報センター <a href="https://www.shouman.jp/about/">https://www.shouman.jp/about/</a>  【参考書】谷川弘治ほか 『病気の子どもとの心理・社会的支援入門 第2版』ナカニシヤ出版 2009。</p>										
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>1. グループワークにおけるレポート課題の書き方に関する基礎的、基本的事項を理解し、説明できるか。  2. 分かりやすい表現方法や具体的かつ論理的な文章作成力が身に付いたか。</p> <p>○評定の方法</p> <p>以下を総合的に検討し、判断する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 小テスト</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>2. レポート課題・課題研究</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>3. 授業への参加度</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>4. 期末試験</td> <td>総合点の30%</td> </tr> </table> <p>*なお、本学規定の「3/4以上の出席」が単位修得の条件であることも判断規準となる。</p>			1. 小テスト	総合点の20%	2. レポート課題・課題研究	総合点の30%	3. 授業への参加度	総合点の20%	4. 期末試験	総合点の30%
1. 小テスト	総合点の20%										
2. レポート課題・課題研究	総合点の30%										
3. 授業への参加度	総合点の20%										
4. 期末試験	総合点の30%										
12. 受講生へのメッセージ	<p>①病虚弱児の心理とチーム医療の実際を中心に講義します。生理・病理は皆さん自身が調べてレポートしてください。  ②病気の子どもには病気の症状に加え、年齢や発達段階、家庭や学校の生活を背景としたニーズがあります。病気に関する知識だけでなく、病児がどんな生活を送るのかを生徒にわたる視点で考えてください。  ③皆さんが現場に出たときにすぐに生きる知識をお伝えしたいと思います。</p>										
13. オフィスアワー	別途通知します。										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第1回	オリエンテーション／小児医療における心理社会的支援サービスの理念	事前学習									
		事後学習	「小児慢性特定疾患」の中から興味のある疾患について調べておく								
第2回	子どもの発育と子育て	事前学習	病気の有無にかかわらず、乳幼児期に育てておきたいスキルとは何か考えておく。								
		事後学習	上記について説明できるようにしておく。								
第3回	病気の子どもとの理解	事前学習	「病弱・病虚弱」の定義を調べておく。								
		事後学習	病気について話題にする際に、各年齢段階でどのような配慮が必要かまとめておく。								
第4回	病気の子どもとのトータルケア	事前学習	長期入院児に特に不足しがちな環境とは何か考えておく。								
		事後学習	上記について教師の立場で何ができるかまとめておく。								
第5回	病気の子どもとの心理社会的支援サービス	事前学習	医療が教師に求めるものとは何か考えておく。								
		事後学習	上記について教師の立場で何ができるかまとめておく。								
第6回	主な病気の病理と心理 (1)	事前学習	「白血病」の症状、治療法、学校教育での配								

	－白血病・心臓病・腎臓病など－		慮事項とは何か調べておく。
		事後学習	入院中と地域の学校に戻ったときに分けて、配慮事項を整理しておく。
第7回	主な病気の病理と心理(2) －糖尿病、筋ジストロフィーなど－	事前学習	「子どもの糖尿病」の症状、治療法、学校教育での配慮事項とは何か調べておく。
		事後学習	入院中と地域の学校に戻ったときに分けて、配慮事項を整理しておく。
第8回	専門職の役割	事前学習	病気の子どもに関わる専門職の仕事とは何か調べておく。
		事後学習	医療現場における教師の専門性とは何か調べておく。
第9回	医療現場で働くための共通の基礎知識と技術	事前学習	インフォームドコンセントとは何か調べておく。
		事後学習	ヒヤリ・ハットとは何か調べておく。
第10回	医療と教育の連携	事前学習	医療現場で行う学校行事にはどのようなものがあるか調べておく。
		事後学習	医療現場で学校行事を行う際の配慮事項についてまとめておく。
第11回	事例に基づいて①(チームワーク)	事前学習	事前に示された事例を読んでおく。
		事後学習	事例に対する配慮事項をまとめておく。
第12回	病気の子どものいる家庭と暮らし	事前学習	事前に示された事例を読んでおく。
		事後学習	事例に対する配慮事項をまとめておく。
第13回	事例に基づいて②(家族支援)	事前学習	事前に示された事例を読んでおく。
		事後学習	事例に対する配慮事項をまとめておく。
第14回	事例に基づいて③(ターミナルケア)	事前学習	各種疾患の病理、治療法、学校での配慮事項を整理しておく。
		事後学習	わからなかった部分を確認しておく。
第15回	病院内で教育活動を行う際の配慮事項(まとめ)	事前学習	医療現場で教育活動を行う際の配慮事項についてまとめておく。
		事後学習	個人情報の保護について再度確認する。
期末試験			